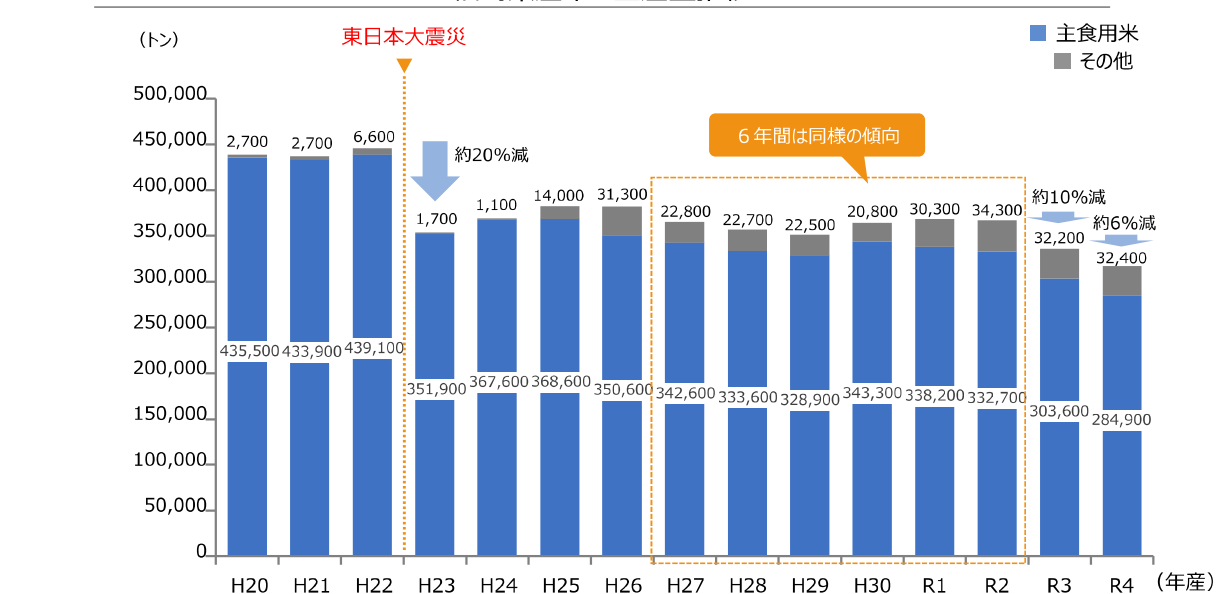


- 県産米生産量は、平成23年産は対前年比約2割減少し、平成27年産以降は横ばいの傾向にあったが、飼料用米等への転換により、令和3年産は約10%、令和4年産は約6%の減少となっている。
- 平成25年産以降、加工用米等の主食用以外の割合が増加し、令和4年産では生産量の約1割を占める。

福島県産米の生産量推移



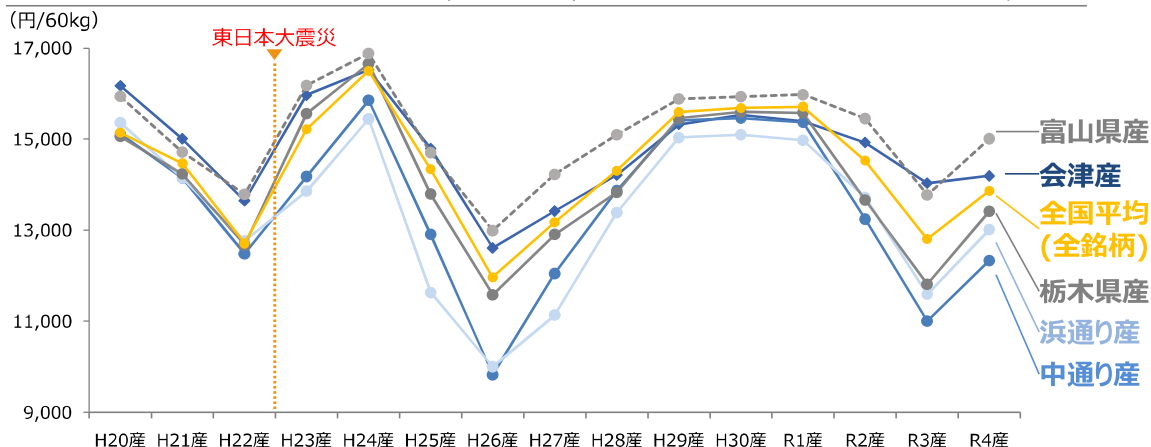
※水稻の収穫量の数値。生産量には「飼料用米」は含まない。
データ出所：農林水産省「作物統計」

31

福島県産米の相対取引価格の推移（概要調査）

- 会津産コシヒカリの相対取引価格は、震災後富山県産コシヒカリと価格ポジションが逆転して以降、下位に位置している。また、栃木県産コシヒカリより概ね上位に位置している。
- 中通り産・浜通り産コシヒカリは、震災以前は栃木県産コシヒカリの価格ポジションと概ね同じであったが、震災直後に大きく差が広がった。令和4年産においては、浜通り産コシヒカリは栃木県産コシヒカリとほとんど同じ、中通り産コシヒカリは下位に位置している。
- 事業者へのヒアリングによると、主食用米から加工用米への作付転換による需給環境の改善及び燃料・肥料の価格高騰などによって、令和4年産の価格は令和3年産より上昇傾向にある。

会津・中通り・浜通り産コシヒカリと栃木県産・富山県産コシヒカリ、全国平均の相対取引価格推移

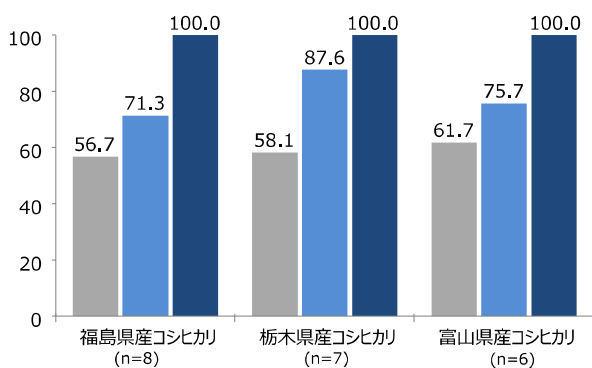


※出荷業者(年間玄米販売量5,000トン以上)と卸売業者などとの間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格を加重平均したもの。運賃(最寄りの大消費地への運賃。全農福島出荷分は平成27年産から運賃を含まない)、包装代、消費税を含む価格。
※令和4年産は11月の価格
※相対取引価格が低い平成22年産や26年産の時期には、民間在庫の増加や、出荷業者の販売数量の増加が生じていた。

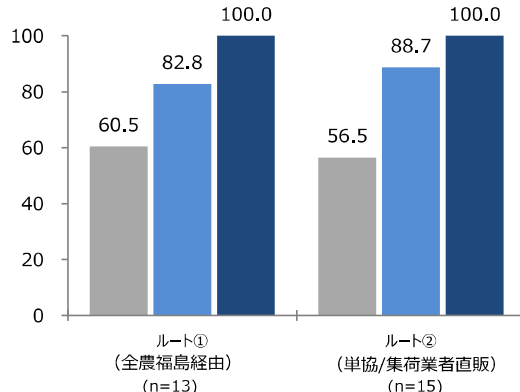
32

- 栃木県産米や富山県産米との比較において、産地・卸売・小売の各流通段階の価格形成に明確な違いは見られない。
- 福島県産米の産地からの出荷ルート別の比較では、「②単協/集出荷業者直販」は自社集荷して販売し、単価が低い事例も含まれていることから、相対的に産地収入がやや低い状況。
 - 近年、倉庫での保管費用や運搬費などの経費が高騰していることから、卸売業者も卸売価格を上げざるを得ない状況になっている。
 - 福島県産米に限らず、消費者の米需要が減少傾向にあり、小売価格引上げの対応が出来ないため、産地収入と卸売販売価格の比率が全体的に高くなっている。

米の価格形成 1（産地間比較）



米の価格形成 2（出荷ルート別比較）



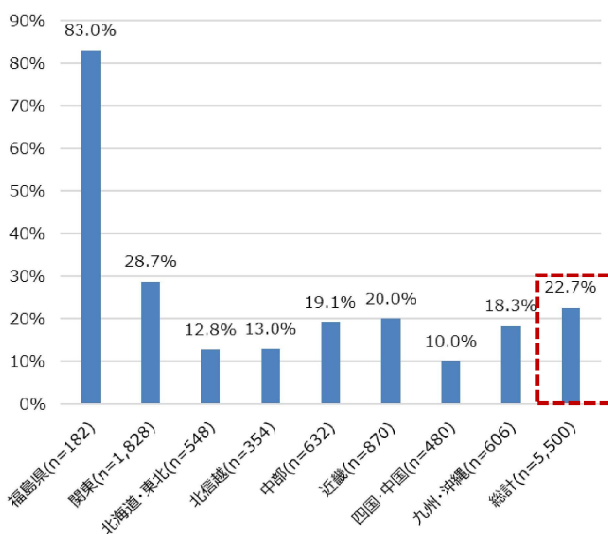
■ 産地収入 ■ 卸売販売価格 ■ 小売販売価格
※数値はそれぞれの調査で、小売販売価格を100とした指数。

33

福島県産米の消費者の購買経験と評価（アンケート調査）

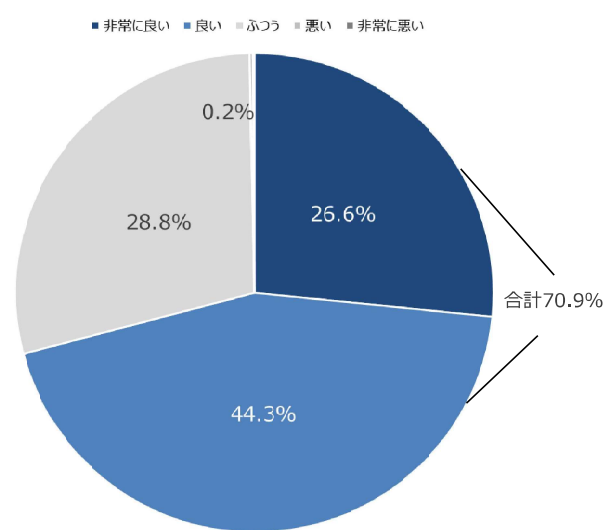
- 全国の消費者のうち、福島県産米を購買した経験がある消費者は22.7%であった。
 - 福島県内居住者では83.0%、関東居住者では28.7%であった。
- 購買経験者に福島県産米の評価を尋ねたところ、「非常に良い」「良い」が7割以上を占めた。

福島県産米の購買経験率



※購買経験率＝1度でも購買したことがある人数／回答者数
※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていない場合は購買経験なしとなる。

福島県産米購買者の評価（n=1,246）



※福島県産米を買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。

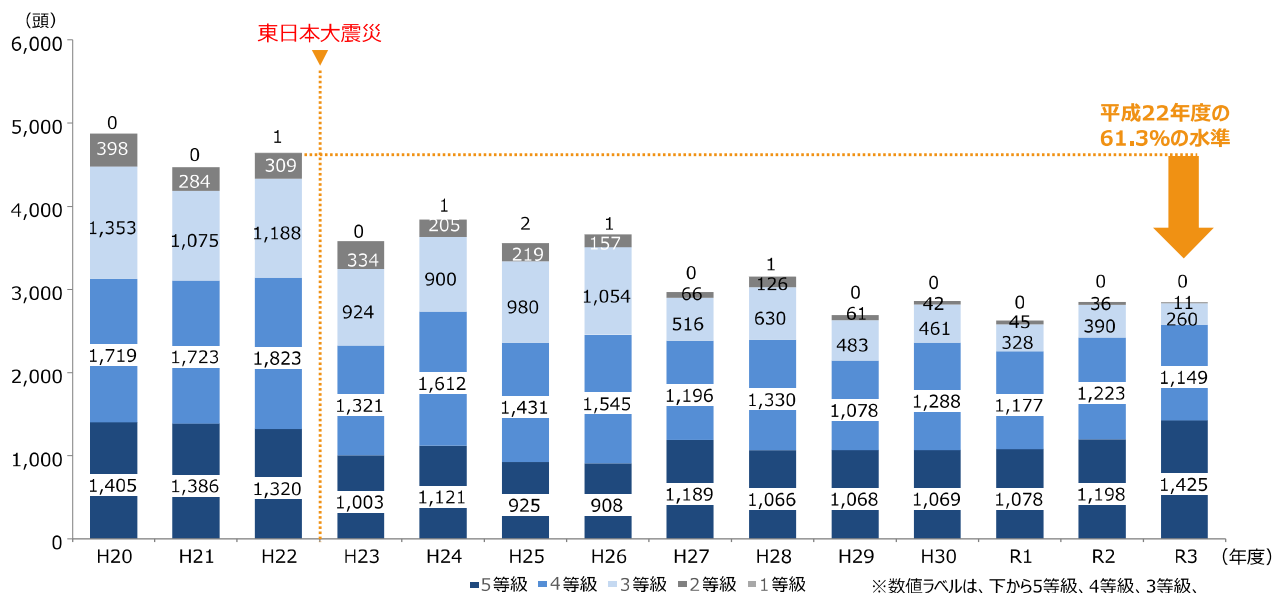
34

福島県産牛の出荷頭数の推移（概要調査）

米 牛肉 桃 あんぽ柿 ビーマン ヒラメ 他の品目

- 東京都中央卸売市場への福島県産和牛（去勢）の出荷頭数は、震災後、減少傾向で推移し、平成29年度以降は概ね横ばいの傾向である。
- 出荷頭数に占める上位等級（5等級・4等級）の割合は、平成27年度以降80%前後の高い比率で推移している。

東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・去勢）



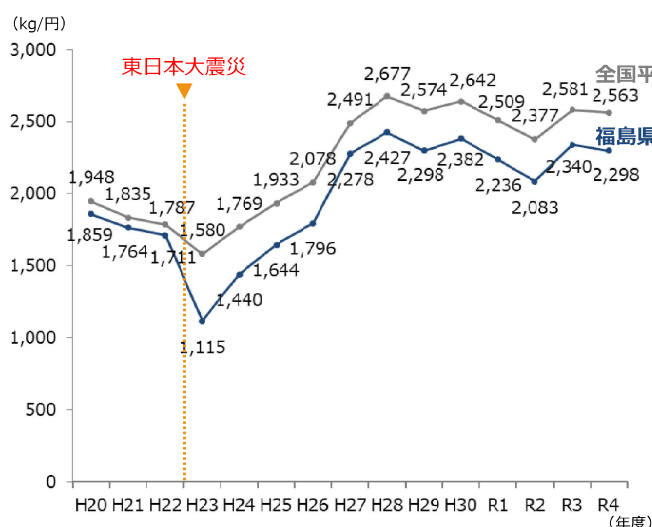
データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

35

福島県産牛の枝肉価格の推移（概要調査）

- 福島県産和牛の枝肉平均単価は、全国平均と同様の傾向で推移している。
- 全国平均との価格差は平成23年度に拡大した後、平成27年度にかけて縮小したが、平成28年度以降は-10%程度で推移している。

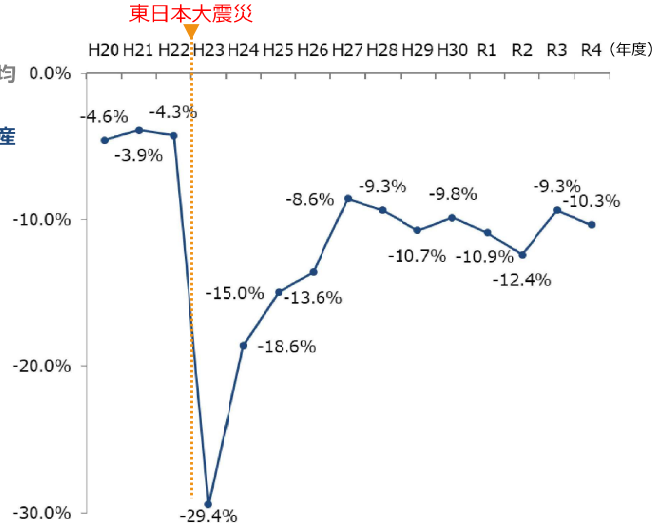
卸売市場平均価格推移（和牛全体）



※令和4年度は、令和4年12月までの実績を使用。

データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

全国平均との価格差推移（和牛全体）



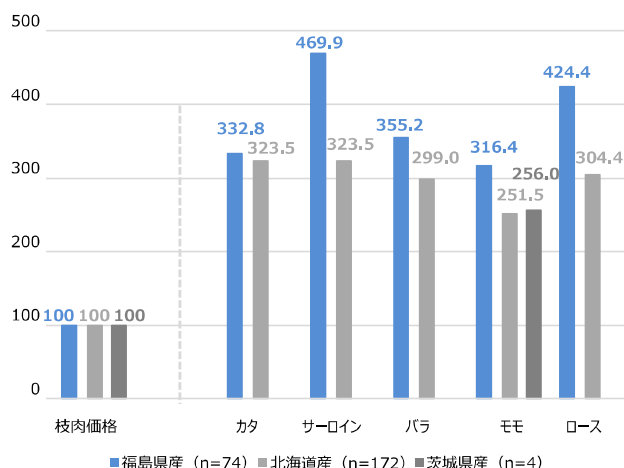
※福島県産及び全国平均ともに、枝肉価格は去勢と雌の平均単価を用いた。

36

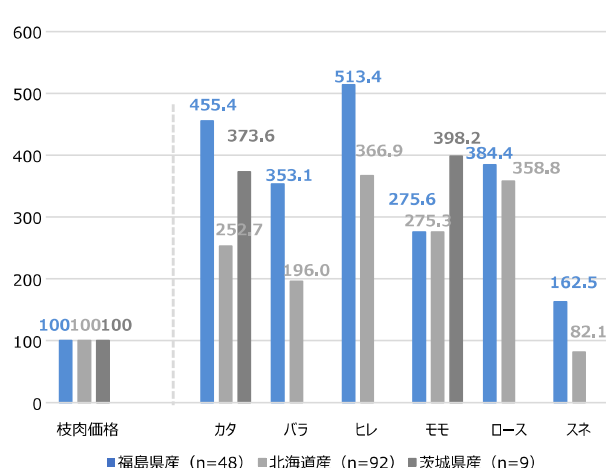
- 牛肉について、枝肉価格と小売価格を収集し、枝肉価格を100としたときの小売価格を部位ごとに産地間で比較した。
- 北海道産和牛や茨城県産和牛との比較では、モモを除き福島県産和牛の各部位の価格が高い傾向が見られた。

福島県産和牛、北海道産和牛及び茨城県産和牛の枝肉価格と小売価格の比較

①産地市場ルート



②県外市場ルート



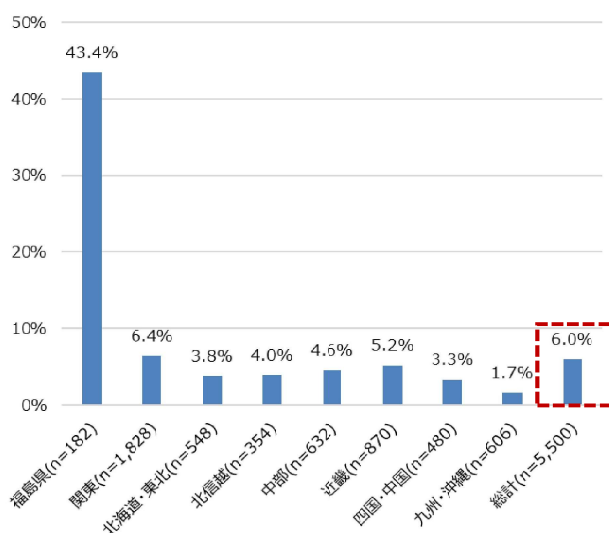
※数値はそれぞれの調査で、枝肉価格を100とした指数。枝肉単価については、福島県産和牛よりも北海道産和牛や茨城県産和牛の方が高い傾向にある。
 ※枝肉価格は、東京食肉市場における4月～12月の平均値とした。小売価格は、7月、9月、11月に調査した小売店などの価格の平均値を部位ごとに集計した。
 ※福島県産和牛、北海道産和牛及び茨城県産和牛のそれぞれのn数は、調査で収集できたアイテム数。

37

福島県産牛肉の消費者の購買経験と評価（アンケート調査）

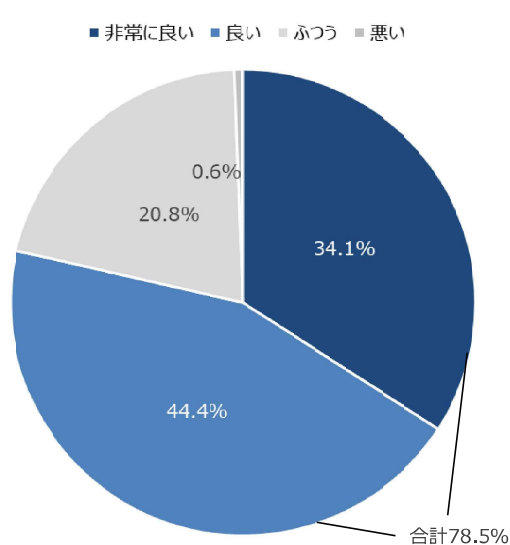
- 全国の消費者のうち、福島県産牛肉を購買した経験がある消費者は6.0%であった。
 - 福島県内居住者では43.4%である。なお、県外では「国産牛」として販売されている可能性がある。
- 購買経験者に福島県産牛肉の評価を尋ねたところ、「非常に良い」「良い」が8割近くを占めた。

福島県産牛肉の購買経験率



※購買経験率＝1度でも購買したことがある人数／回答者数
 ※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っている場合は購買経験なしとなる。

福島県産牛肉の購買者の評価（n=331）



※福島県産牛肉を買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。

38